



4/17 (水) 18:30 中興南
カシオの音楽 生活学部
4/24 (水) 18:30 } 車指日
5/1 (水) 18:30 } 教会

演奏会のオサイフ事情も気にしつつ、、、

まだまだ演奏会はさき、のようですが、演奏会宣伝チラシの内容準備の時期になっています！

その記載内容の重要ポイント「チケット代」！モチロン記載、という以前にワタタチの大きな課題！

総会時にも資料で説明していたように、演奏会経費はチケット収入でまかないます。演奏会支出予想は「3,145,000円」。現行のチケット代は1席当たり平均4840円（S5000円、A4500円、B2500円。S698席、A76席、B40席）なので、650席拡大でトントン、というところです。

前回の「モーツァルト・レクイエム」は団員が56名&平均11枚超で、630席超まで拡大でき、日常会計も団員数が多かった分黒字が出たため、団費以外の「協力金」の必要はありませんでした。

しかし今回は、団員が46名。650枚拡大するには一人平均14枚超が必要。なかなかハードル高いです。もし、たとえば一人平均10枚しか届かなかつたら、約92万円赤字となり、一人2万円の協力金をお願いしなければならなくなります。（日常収支も総会資料の通り、この団員数で赤字見込み、協力金要の可能性が高い）

一方、チケット代を値上げすれば、経費に対する必要枚数は少なくて済みます、また、平均10枚しか届かなかつたとしても、単価を上げている分、赤字額は抑えられて、協力金額も抑えられます。

ただ「チケット代が上がると、今まで買ってくれた友人が買ってくれなくなるかも」という心配の声も聴かれます、、、いろいろと悩むところですね。そこで、各自いちど「いつも買ってくれている方々、或いは、今回、すすめてみようと思っている方々」のことを具体的に考えて、値上げが可能かどうか、考えていただきたいのです。

チケットは団員のみなさんに拡大していただくものなので、無理に値上げしようとは思っていません。

ただ、前回の「モーツァルト・レクイエム」演奏会のようにはいかないことが想像できるため、その状況の認識も共有したく、今回の検討をしたいと思います。別用紙を用意していますので、記入の上、提出してください。

※計算参考（演奏会必要経費3,145,000円、対経費必要枚数、及び達しなかった際の協力金額）

	チケット代1席当たり平均価格	対経費必要数	一人10枚=460枚だった場合
① 現行 4840(5000、4500、2500)	650枚 (14.2枚/人)	@4840×460=2,226,400円 918,600赤→19,970円/人の協力金	
② 500円値上げ 5340(5500、5000、3000)	589枚 (12.8枚/人)	@5340×460=2,456,400円 688,600赤→14,970円/人の協力金	
③ 1000円値上げ 5840(6000、5500、3500)	539枚 (11.7枚/人)	@5840×460=2,686,400円 458,600赤→9,970円/人の協力金	

大阪フロイデと近い編成・同等ホールでの演奏会の参考として、

神戸フロイデはS6000、A5000、B4000、C3000。大阪シンフォニックワイアはS5000、A4000、B3000

※なお、毎回話に出る「ノルマ」ですが、これについては現行のまま、「最低ノルマS3枚、目標は■枚以上。

広められる方は20枚でも50枚でも広めてください！」のスタンスで行きたいと思えます。必要枚数人数割りの完全ノルマ制だと、広められない方はチケット代のみ入金されるようになり空席になってしまう、逆にノルマ数以上のお友達の居る方は、希望されているのにチケットの割り当てが不足してしまう、というデメリットがあるからです。

♪ハイドン (1732~1809) 、モーツァルト (1756~1791) 二人の作品数はほぼ同じ! ?

ハイドンは 77 年の人生、モーツァルトは 35 年の人生、それでは作曲数もハイドンが倍くらい? と思いますよね~。ハイドンの作曲数は 1000 を超えるとも言われていますが、未完成や断片、偽作もあるため、それらを除くと 700 くらいだそうです。モーツァルトは、遺作となった「レクイエム」のケツヘル番号が 626 番。ただし、こちらも遺された断片も含めると 900 以上と言われているそうですし、あとから見つかったりするものもあるなどなど。。

こうしてみると、ハイドンはモーツァルトよりも倍以上生きてけど、作曲数はほぼ一緒なんですね \ (◎o◎) / !

しかし、「1000 を超えるといわれているが 700 程度」とか、けっこう幅のある表現になっています、、

この秘密が、ハイドンの楽譜に書かれている Hob、モーツァルトの楽譜の K (または Kv.) に隠されています。

というわけで「作品番号」について、ちょっと調べてみました。

↓↓↓

作品番号は、Op. が一般的ですが、ほかに K や Hob やら D やいろいろあります。K や Hob や D は、作曲家自身が番号を振らなかったため、あとから研究者が整理した番号です。

最も一般的に使われている Op. はラテン語の「作品」を表すオプスからきており、基本的には一人の作曲家の全作品を年代順にならべ、振られたものとされています。おおむね、作曲の若い順につけられ、作曲家が自ら付ける場合もありますが、18 世紀以降、出版された 1 冊の楽譜を単位として与えられることも多いです。作品番号が用いられ始めたのは 1600 年ぐらいからだそうで、バッハやハイドンの時代にはすでに存在していたはず。

ところがハイドンにしる、モーツァルトにしる自分の曲を整理して付番するということをしませんでした。もっともモーツァルトなどは子供の頃から遊びのように作曲していたわけで、自分の作品に番号をつけるなんていうことは考えもしなかったでしょうけど。。。で、やはり、番号をつけて整理しないと誰の作品かわからない、不便! ということで、後世の学者が目録を整理しながら付番していったのが Hob とか K とか BWV などというわけ。以下代表的なもの。

《**BWV**》ドイツのヴォルフガング・シュミーダーという人が整理した「バッハ作品目録」の頭文字をとったものです。

この番号は作曲順ではなく、ジャンル別に整理されています。

《**K**》ケツヘル番号はルートヴィヒ・フォン・ケツヘルがモーツァルトの作品を年代順に整理して付番したもので、K と書かれることが一般的ですが、場合によっては Kv と書かれることも。モーツァルトのケツヘル番号についてはその後いくつも改訂版がでています。有名な間違いとしては K350「モーツァルトの子守歌」。「ねむれよいこよ~」と始まる美しい歌ですが、これはのちに、フリースの作品であることがわかり、ケツヘル番号からも削除されたそうです。

《**Hob**》オランダのアントニー・ヴァン・ホーボーケンが著した「ヨーゼフ・ハイドン主題書誌学的作品目録」に従う番号。「J. ハイドン主題書誌学的作品目録」は、器楽編 1957 年、声楽編 1971 年、第 3 巻 1978 年、にそれぞれ出版。通し番号ではなく、ジャンル別につけられています。

《**D**》オットー・E・ドイッチュがまとめた「シューベルト作品総目録」の整理番号。シューベルトについても死後、世に出ていなかった作品が発見される度に番号の見直しが行われ、曲によっては 2 つの D 番号があつたりします。

《**それ以外の有名なもの**》ヘンデルの HWV、バルトーク作品の Sz、ベルリオーズの H、ドヴォルザークの B、などの整理番号があります。